

白馬岳山行報告書

M3 田中李樹

○日程

2014 年 9 月 27 日（土）～9 月 28 日（日）

○参加者(敬称略 3 名)

M4 荒川 M3 田中 C1 上村

○行程

1 日目

8:00 猿倉～10:30 小日向のコル～12:30 白馬鑓温泉小屋（小屋泊）

2 日目

白馬鑓温泉小屋 4:30～7:20 鑓ヶ岳 7:50～8:50 杓子岳～10:30 白馬岳頂上宿舎～10:45
白馬山荘～11:00 白馬岳 11:30～11:45 白馬山荘～12:00 白馬岳頂上宿舎～13:00 岩
室跡～14:15 白馬尻小屋～15:20 猿倉

○本文

とにかく白馬鑓温泉に入りたくて企画した山行だった。そのため二日目の行程はなかなかの長丁場になってしまったが、不安のないメンバーが集まった。

金曜深夜にレンタカーで東京を出発。日の出前に猿倉に到着した。猿倉の駐車場は狭いと聞いていたのでもしかすると八方に駐車してタクシーかなと思っていたが、我々が到着した時の駐車場の埋まり具合はおそらく 7 割程度、余裕で駐車出来た。それから暫し仮眠をとり 8 時ころ猿倉を出発した。出発時にはガスがかかり多少雨もぱらついていた。駐車場は我々が眠っている間にほぼ満車になった模様。この日のコースタイムは 4 時間半と短いため気楽に登山開始した。

白馬鑓小屋までは、紅葉が見られたり池や雪渓があったりと、特に何も期待していなかった割に楽しめる登山道だった。小屋泊のため荷物も軽く楽々登って行った。

12時半前予定より早く白馬鑓温泉小屋に到着。小屋の前にはすごい勢いで温泉が流れ落ちていた。疑いようのない源泉かけ流しという感じ。受付を済ませ、部屋



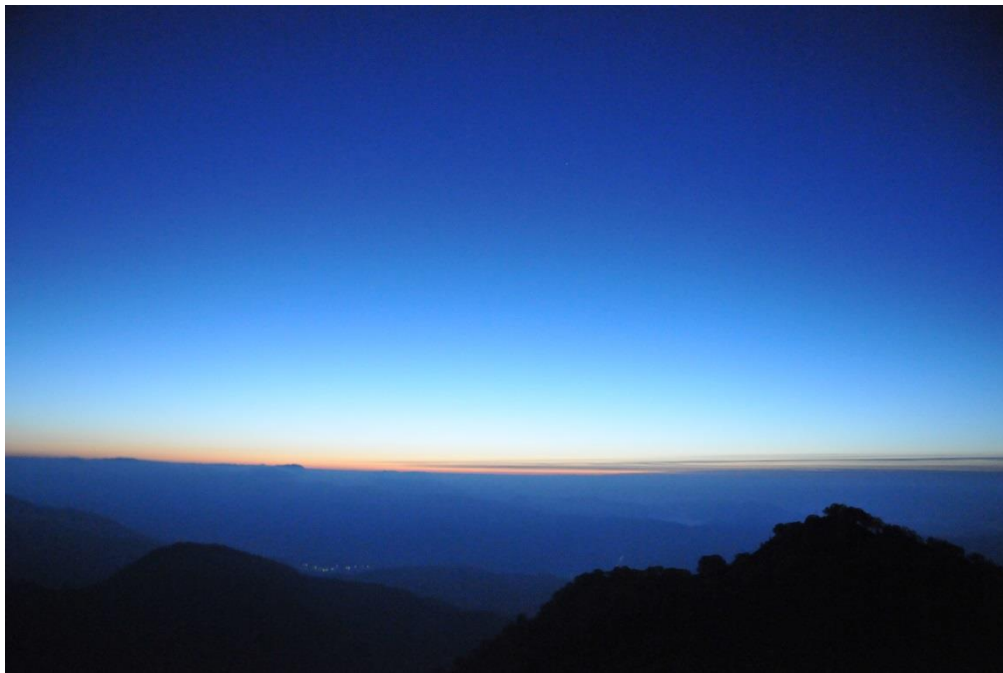


に荷物を置き、ベンチでビールを飲む。少々ガスっていたが晴れ間があると稜線が見えなかなか良い景色。露天の温泉は混浴だが、登山道から丸見えで女性には勇気がいりそう。既に先客が複数名湯につかっていた。ビールを飲み終わると、着替えとビールその2を手に露天風呂に。早くも今回の山行のハイライト。わくわくしながら湯につかるとものすごく

熱い。露天風呂の先客達は軒並み湯に足だけつけてふちのところに座っていた。こんな下から丸見えの風呂でわざわざ湯から出てみんなで座っているなんて、きっ



と全員露出狂なんだろうと思っていたが、どうやら僕の推理は外れたらしい。長い時間つかることのできる湯温ではなかった。とはいえ我慢してつかっているうちに慣れてきて、割とゆっくり温泉を楽しんだ。冷たいビールが美味。上村氏はお子様なので CC レモンを飲んでいた。もったいない。適当なところで風呂から上がり夕食の支度。初日のコースタイムが短かったので、久しぶりに鍋をした。スーパーでたまたま見つけた豆乳鍋のもとを使ったがなかなか美味しかった。調子に乗って春雨やご飯うどんまで持ってきたが流石に量が多かった。食事を終えたら再び露天風呂へ。日が暮れてから入る風呂は、外は極寒湯は激熱で調整が大変難しかった。それでも暫く座っていると何となく体が慣れてくる。その後内湯にもつかり存分にお湯を楽しんだ。自分は長くお湯につかりすぎたせいで軽いやけどのようになって翌日多少痛かった。小屋に戻り体が冷えないうちに就寝。白馬鑓温泉小屋は9月で営業終了らしく、既に小屋の解体が始まっていて客室が少なくなっていたため、寝る場所はかなり窮屈だった。これだけが今回の山行で唯一残念だったところ。



翌朝
起きて
外に出
ると、昨
日のガ
スはす
っかり
晴れ満
点の星
空だっ
た。朝食
の後、ど
うして
も星を

見ながら温泉に入りたくなり、今回 4 度目の入浴。星空を見ながらつかる露天風呂は極楽だった。



この日は長丁場のため日の出前からヘッドライトをつけて登り始める。最初はそこそこハードな岩場が続いた。鑓ヶ岳までの中腹付近で大きなカールのような地形があり、ここでご来光を拝むことにした。雲海から昇る見事な朝日だった。明るくなって周囲を見回すと、紅葉の美しい素晴らしい景色が現れていた。

鏈ヶ岳山頂にはコースタイムより随分早く到着した。山頂の天候は素晴らしく、北は杓子岳と白馬岳、南西に剣立山、南は鹿島槍五竜から穂高まで北アルプスの殆どの百名山をはっきりと望むことが出来た。これほど視界の良い山頂は殆ど経験がない。きっと僕の日頃の行いが良いのだと思う。



実はこの前日御嶽山の噴火があり、煙が立ち上る様子も見て取れた。登山者の間で噴火のニュースは噂になっていたが、まさかあれほどの被害が出ているとは思ってもよらなかった。九月の行楽シーズンで、気分次第では自分も御嶽山に登る計

画を立てていたかもしれないと思うと恐ろしくなる。犠牲者のご冥福をお祈りします。



その後は上り下りを繰り返しつつ、何かに削り取られたような杓子岳や、緩やかで独特な山容の白馬岳のピークを踏んだ。白馬岳まではずっと天候に恵まれ、景色を楽しみながらの行程だった。

白馬山頂からは、大雪渓を下山する。9月の終



わりとはいえ巨大な雪渓が残っていたが、雪渓の脇に道が出来ていて、上を歩いたのはほんの15分ほどだったように思う。なかなかのハイペースで下ったが、雪の上を吹く風は冷たくて気持ちよかった。下山はほぼ予定通り。朝欲張って温泉に入りなおしたり、あまりに天候が良く

山頂に長居したりした割に遅くならず済んだ。特に下りはペースが速すぎたかもしれないが、付いてきてくださった二人に感謝。

